発行所
長野県保険医協会
〒380-0928　長野市若里 1-5-26
電話　026-226-0086
FAX　026-226-8698
E-mail office@nagano-hok.com
年間購読料　3,600 円
会員の購読料は会費に含まれています

# 長野保険医新聞

2025 年（令和 7 年）10 月 5 日
No.536　（毎月 1 回 5 日発行）
（1990 年 6 月 22 日第三種郵便物認可）

主な記事

相続・贈与セミナー、新規個別指導対策講習会開催報告、中医協動向…2 面、2024 年度指導結果…3 面、保険かわら版…4 面

## いのちまもる 9.25総行動
## 2,200 名が厚労省に向かって怒りの訴え

9 月 25 日、保団連も実行委員として共催する「いのちまもる 9.25 総行動」が開催された。医療、介護、福祉、保健の従事者等約 2,200 名が残暑の中、東京都の日比谷野外音楽堂に集結し「もう限界！平和と社会保障を立て直せ！」をテーマとして、賃金増・人員増や、医療制度の改悪反対、社会保障の充実等を訴えた。

県保険医協会の宮沢会長、林副会長も現地で参加した。各分野からのリレートークでは第一話者として医療現場を代表し保団連の宇佐美副会長が登壇。自身の戦争経験を話した上で、「戦時下ではお国に物を申せば逮捕される時代だった。現在私たちがこうして物を申せているのは日本が今はとりあえず平和だから。しかしそれも崩壊が近づいており、様々な改悪が行われ、中でもマイナンバー法は、ナンバーを振られた国民の健康を国が完全に管理する道具である」と危機感を訴え、「平和無くして医療無し。今声をあげなければ日本に未来はない。ともに頑張りましょう」と激励した。

看護、介護、保育現場からのリレートークが続き、最終話者として登壇したマイナンバー制度反対連絡会の石川敏明事務局長はこの日、集会に先立ち医団連と共同で、厚労省とデジタル庁へ交渉懇談をしてきたことを報告した。従来の健康保険証の廃止撤回と発行再開を求めたが、省庁の職員は「マイナ保険証にはメリットがあり、これを広げていく。高齢者や障害者には配慮している。円滑に進める」といった発言のみを行い、保険証を廃止しなければならない理由や保険証で不自由なことはなかったことについてどう思うかといった質問に対しては全くの無回答であったことを明かした。

閉会後は銀座をパレード

医療現場の代表として保団連がリレートーク

最後に、本集会のアピール内容を確認し、会場の隣にある厚労省に向かってシュプレヒコールを行った。閉会の挨拶では保団連の竹田智雄会長が「国民のいのちと健康、生活と生業を重視する社会保障充実政策への転換を求めて活動を進める。また、全ての医療、介護、福祉、保健従事者が自らの将来に希望と誇りを持てるような環境づくりが必須であり、国民とともに大きな世論を形成し、これらの要求の実現に向けて必勝を信じて邁進したい。一丸となって粘り強く運動を展開していきましょう」と締めくくった。

閉会後には、会場から東京駅に向かい銀座の街中をシュプレヒコールをあげながらパレードを行った。

厚労省に向かってシュプレヒコール

**シュプレヒコール**
- ●ケア労働者を増やせ
- ●地域医療・介護をまもれ
- ●ケア労働者の賃金を上げろ
- ●いのちをまもれ
- ●診療報酬を大幅にふやせ
- ●憲法改悪反対
- ●介護・福祉報酬を大幅にふやせ
- ●格差と貧困をなくせ
- ●社会保障費をふやせ
- ●従来の健康保険証をなくすな
- ●高額療養費制度改悪を白紙撤回せよ

## 理事会声明を発出
### OTC類似薬の保険外し

県保険医協会は 9 月 30 日の理事会において理事会声明を発出した。内容は、OTC 類似薬の保険外しは撤回することを強く求めるとし、同日付で内閣総理大臣、厚生労働大臣、デジタル大臣およびマスコミ各社に送付した。

類似する OCT 医薬品のある医療用医薬品を保険適用から外すことによる弊害として、患者の自己負担の増加、受診控えを助長するほか、重篤疾患の初期サインの見落としや多剤併用・禁忌の見落としリスクが上がる可能性を指摘。結果的に重症化や合併症を招き医療費全体の増加に跳ね返るおそれがあることが考慮されていないどころか、国民皆保険の根幹である「国民の命と健康」を軽視する政策であると強く非難した。

長野県保険医協会では弁護士と顧問契約しています。会員の先生は電話相談を無料でご利用いただけます。（電話相談以上をご希望の場合は個別にご契約となります）保険医協会からお取次ぎしますのでまずはご連絡下さい。

## 署名のご協力のお願い

長野県保険医協会では現在、

**●医療機関への緊急財政措置　●診療報酬の大幅引き上げ**

を求める**医師・歯科医師要請署名**に取り組んでいます。予算編成が活発化するこの時期に全国の保険医協会が一斉に行うことで影響力を高める狙いがあります。集まった署名は内閣総理大臣、厚生労働大臣、財務大臣他関係各所に提出します。

署名用紙は、9 月 15 日号の全国保険医新聞等と同封でお送りしておりますが、当会ホームページ（右の二次元コード）からウェブ署名も可能です。多くの先生方のご協力をよろしくお願いいたします。

## 鶏声

今年の夏は登山の遭難事故が例年より多い。北アルプスや八ヶ岳をはじめ長野県内の山々で、疲労により歩けなくなったとか転倒してケガをしたという報道が毎日のようにされている。比較的軽い症状が多いが、歩けなくなると山では救助が必要になる。中には滑落のような重大な遭難事故で亡くなるケースもある。山での事故は一瞬のミスで起こる。筆者も山に登るが、街で歩いている道とは違うので一歩一歩慎重に歩を進めている。そんな中時々軽装で登山している方を見ることがあり、事故にならないか心配になることもある。◆こうした遭難の一つの要因として、近年ＳＮＳや動画配信サービスで登山の様子を見ることができるようになり、誰でも簡単に登山できるような印象を持つことがあるのではないだろうか。しかし現実の世界とＳＮＳの世界とは違う。どんな山でも日常生活の場所とは大違いである。ここにはネットによる情報社会の一つの弊害があるように思われる。◆こうした情報社会の弊害は他の分野にもある。例えば最近の政治の世界でもＳＮＳの利用が多くなっているが、中には偽情報や誤情報があり、そのことを理解せず、それらの情報を鵜呑みにして政治的判断をしていることが危惧される。その結果選挙結果に及ぼす影響も少なからずあるのではないかと思う。情報の氾濫社会の中で、何が正しい情報なのかをチェックし判断できる目を養うことが大切であると思う今日この頃である。（ＯＨ生）